

静岡県立田方農業高校 ライフデザイン科セラピーコース

高校生ボランティア・アワード2022

植物で人を繋ぐ地域をつなぐ認知症カフェ 「ふる～るカフェ」の企画・運営

私たちが通う静岡県立田方農業高校は5学科からなる農業高校です。ライフデザイン科セラピーコースでは、植物を介とした園芸福祉活動についてを学んでおり、その実践の場として保育園や特別支援学校等で交流活動を行っています。

2018年、ライフデザイン科セラピーコース生が認知症サポーター養成講座を受講しました。認知症への理解を深める中で、函南町内には認知症カフェが少ないことを知り、生徒有志が「私たちでも何か活動できないか」と考えました。そこで、園芸福祉の知識を持つ私たちが主体となり、函南町地域包括支援センターと連携し、認知症の方とその家族や地域住民が園芸を楽しみながら交流できる、農福連携の認知症カフェ「ふる～るカフェ」を高校の実習室で開催することとしました。

4年目になる本年度はセラピーコース3年生4人を中心に、セラピー2年生や他学科の関心のある生徒の10人程度でボランティアチームを結成、組織して企画・運営し、学校のある函南町地域包括支援センターと連携して参加者募集や運営のサポート、専門的なアドバイスをお願いしています。

月に1度、原則第1土曜日の午前中に開催しています。2019年1月の初開催から2022年6月までに延べ25回開催しました。

押し花のしおり・うちわづくり等の園芸クラフト、収穫した大根を用いたパンケーキづくりなど、毎回テーマを考えて運営を行っています。



レイズベット(高床花壇)に春の花、ハーブを定植



松葉を使った相撲ゲーム



ドライフラワーを使ったアロマワックスサゼり



野菜スタンプによるエコバックの製作

植物は私たちが思っているよりも遥かに大きな力を持っています

植物には空気をきれいにする力や、ストレスを軽減する力、目の疲労軽減などの様々な力があります。

私たちは保育園児とジャガイモの収穫をしたり、特別支援学校の生徒と卒業式の会場を飾るパンジーの栽培をした時にみんな笑顔があふれていて楽しそうでした。また作業をしている時は自然に会話が生まれます。

この時、植物には年齢や障害の有無に関わらず人を幸せにする力があると実感します。



収穫した花を使ったハーバリウム



野菜スタンプのエコバック

「植物の力」を使ったアイデア いっぱいのカフェづくりめざして

私たちは農業高校生として花や野菜を種から育てること、その育てたものを使って、園芸クラフトをすることなど、植物の力を最大限に生かすことができます。



押し花のサンキャッチャー



木の実を使ったフォトフレーム



押し花を使ったマグネット

授業で栽培した植物を使用しています。

園芸活動を通じて得られる効用

心身のリハビリテーション
心の癒やし効果、コミュニケーション促進
共同作業による社会参加促進を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復心のゆとりや豊かさなどのQOL(生活の質)の向上を実現

田方農業高校には5つの学科と10のコースがあります。

生産科学科 生産流通コース 生産技術コース	園芸デザイン科 フラワーコース ガーデンコース	動物科学科 生産動物コース 愛玩動物コース	食品科学科 食品加工コース 栄養コース	ライフデザイン科 フードコース セラピーコース
-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	---------------------------	-------------------------------

認知症カフェとは 認知症のご本人とご家族が、地域住民の方や、介護・福祉・医療の専門家と身近な場所で集い、交流できる場のことです。

厚生労働省が2015年に発表した「新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)」の一環です。新オレンジプランの目的は、認知症の方が住み慣れた場所で、自分らしく暮らしていくことです。そのなかで認知症カフェは、介護者を支援するという観点から成り立っています。それが、認知症のご本人の、生活の質を向上させることにもつながります。

認知症カフェの名称について 「ふる～るカフェ」のフルールはフランス語でfleur「花」を意味します。植物を使った認知症カフェに合っていると言うことで、一番最初に認知症カフェを運営した先輩達が名づけました。

「継続開催できる運営体制」❤️ 楽しく過ごせる場の提供

年間スケジュールの作成・前年度の3月に函南町地域包括支援センター職員と打合せ。次年度の開催スケジュールを学校の行事を見ながら年間計画を作成します。
※参加者の方が分かりやすいように月初めの土曜日に開催日を固定

ボランティア募集！！
来年度にむけて2年生に声掛け

カフェの内容の検討・決定・ボランティアミーティングを開いて季節や行事に合った植物や参加者の方の実態に合わせてカフェの内容を検討します。
カフェの時間を1時間半を目安に内容を検討します。

試作・募集ポスターの作成・授業で実施した内容もありますが、必ず試作やシュミレーションをおこない材料の準備をします。募集用のポスターをPCを使って作成し地域包括支援センターに届けます。

参加者の募集と調整・参加者の募集については函南町地域包括支援センターの職員の方に依頼します。人数は教室の広さから10人前後としてもらっています。参加者の方の人数が決まったら包括支援センター職員の方から連絡があります。

前日準備・打ち合わせ・ボランティアミーティングを開催。放課後にカフェを開催する教室に集合して机のレイアウトや材料・道具の準備やカフェの進め方について打ち合わせをおこないます。

※ ボランティア募集と確保
来年度にむけて認知症カフェを継続して開催できるようにボランティアを募集します。また「認知症カフェ」を知ってもらうために同級生にも声掛けをします。土曜日は部活動の練習や大会があり、なかなかボランティアがいけないのが課題です。

カフェ 当日の運営

- 9時20分 生徒集合
- 9時40分 函南町地域包括支援センター職員の方と打ち合わせ
- 9時50分 受付開始
①参加者名簿へのチェック ②参加料の集金 ③体温測定と記入 ④参加者の名札の作成(養生テープ)
- 10時00分 カフェ開始
①自己紹介 ②今日やることの説明 ③デモンストレーション
※休憩を入れます。
- 11時30分 カフェ終了 終了時に次回のポスターを配布し内容を説明します。
- 11時40分 片付・ふりかえり(センター職員の方と合同でふりかえりをします)



心がけていること

- ※ 参加者の方に寄り添い、穏やかな口調で話しかける
- ※ 参加者の方に様子を良く見る。楽しんでもらえる様に自分自身も楽しむ！

実施の成果

認知症の方の笑顔



認知症の方が参加するうちに元気になったり、自分の名前が書けるようになったり良い変化もみられるようになりました。

「ふる～るカフェ」は、認知症の症状の進行防止や認知症の方の家族の息抜きの場にもなっています。

私たち学びの場



認知症について知らないことが多かった私たちは「ふる～るカフェ」の運営を通して理解を深め、認知症の方への接し方も向上しました。授業では得られない実践力や企画力も身につきました。

認知症カフェをきっかけに認知症について広く知ってもらいたい

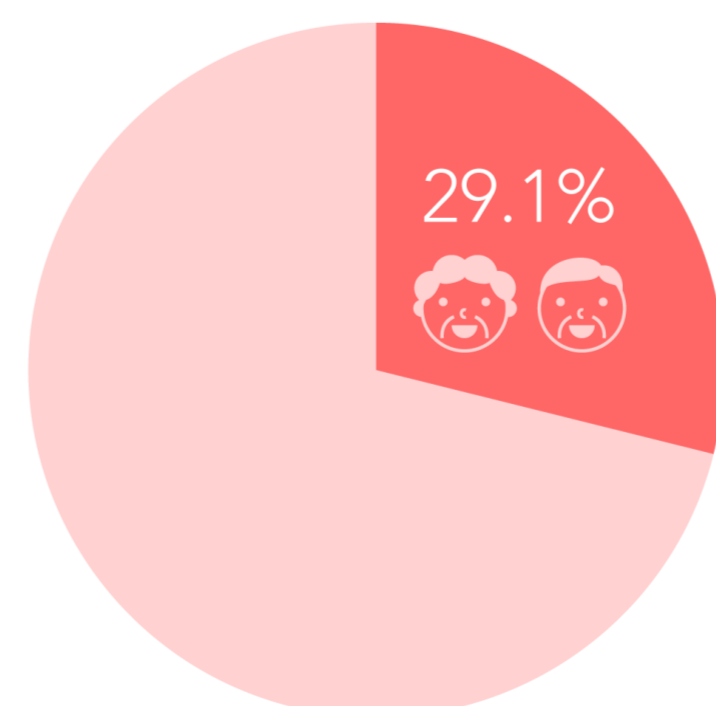
認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりをしていきます。



総務省統計局から発表される日本の高齢者人口について見てみると、最新の発表によると2021年9月現在の高齢者人口は3,640万人、高齢者人口率は29.1%となります。

私たち学校のある函南町の高齢化率も静岡県内で53市町中14番目に多く、32.3%と全国の高齢化人口率を上回っています。

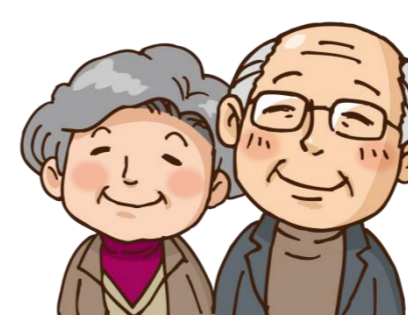
また2012年は認知症患者数が約460万人、高齢者人口の15%という割合だったものが2025年には5人に1人、20%が認知症になるという推計もあります。認知症の要因は加齢にあることから、超高齢社会で暮らす私たち誰もが認知症になる可能性があります。



このように、超高齢社会において、認知症を減らすことやなくすることはできません。しかし、認知症の進行を遅らせたり、予防することはできます。

高齢者の人たちや認知症の方が幸せに暮らせる、過ごしやすい社会にするためにも私たちにできることは少ないですが今後も「ふる～るカフェ」を継続開催できる運営体制をつくりながら、植物や園芸を通して認知症の方やその家族が楽しく過ごせる場づくりをおこなっていきます。

認知症カフェをきっかけに、より多くの方が認知症や認知症カフェについて知っていただけるように積極的にアピールしてゆきます。



Instagramを使って情報発信
「認知症カフェ」や普段の学習について積極的に情報発信中！！



ライフデザイン科セラピーコース

ライフデザイン科セラピーコースでは、農業を福祉に活用して行く「園芸福祉」を中心として幼児から高齢者福祉、特別支援学校と連携して実践的に学習をしています。農業高校の中で園芸福祉を学ぶコースは全国的にも珍しいです。

本年度の「ふる～るカフェ」運営ボランティアはセラピーコース3年生4人が中心となり、そこにセラピーコース2年生の3～5人が加わって企画や運営を進めています。

新型コロナウイルスにより一昨年度、昨年度はカフェが開催できない時もありました。

まだまだ制限もありますが、今年度は何とか開催できています。これから継続的に開催し植物で人や地域を繋ぐことができる認知症カフェを目指して頑張っていきます。